

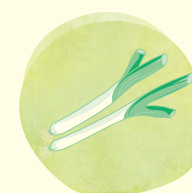
トウモロコシ

やさいの里営農センター 営農指導員 三枝 宏禎



農作業

テクニカルダイアリー



夏ネギ

やさいの里営農センター 営農指導員 宇井 文英

肥料の過不足による生理障害は多くありませんが、生育が早い場合、窒素、リン酸、カリウム、マグネシウム、ホウ素な

肥料欠乏症

収穫する穂は播種後約1カ月(本葉4〜8枚期)に決定されます。この時期に高温や乾燥などのストレスを受けると、収穫物の穂先の扁平や不稔を助長します。また生育には多くの水が必要ですが、過湿に弱い面もあります。環境ストレスをできるだけ回避するように心がけましょう。

播種後のポイント

トウモロコシは発芽適温が20〜28℃と比較的高いため、春先などの低温期に播種すると、発芽不良が多くなります。直播の場合は播種1週間前までにマルチを張り、地温を確保しておきましょう。

播種前のポイント

秋冬ネギと同様に首元まで止め土をすると、収穫後の腐りなど品質低下につながる恐れがあります。夏ネギの土寄せは、ネギの首下までに留めましょう。

止め土から収穫までの注意点

夏ネギで問題となるべと病・さび病・白絹病等の多くの病気は、多湿により発生・まん延しやすくなります。一度発生すると防除が困難なため、予防が重要です。排水対策も重要で、収穫が近づいてきたら特に注意してください。排水の悪い圃場では、あらかじめ明渠の設置等の排水対策を講じましょう。また降雨が予想されるときは、早めに防除を行ってください(表①参照)。

生育期間中の管理

夏ネギで問題となるべと病・さび病・白絹病等の多くの病気は、多湿により発生・まん延しやすくなります。一度発生すると防除が困難なため、予防が重要です。排水対策も重要で、収穫が近づいてきたら特に注意してください。排水の悪い圃場では、あらかじめ明渠の設置等の排水対策を講じましょう。また降雨が予想されるときは、早めに防除を行ってください(表①参照)。

● **ホウ素欠乏**(写真⑥)
上位葉の葉脈間が白く黄化したたり、葉の展開が悪く、しわになったりする。穂にも異常をきたし、不稔の原因にもなる。

● **マグネシウム欠乏**(写真⑤)
中位葉を中心に鎧状に黄化し、症状が進むと鎧状に枯死斑を作る。

● **カリウム欠乏**(写真④)
全体にやわらかい感じに生育し、下葉の周辺から黄化し枯死する。

● **リン酸欠乏**(写真③)
生育が劣り、葉色が暗くなつて下葉の先端から枯死する。

● **窒素欠乏**(写真②)
生育が劣り下葉から黄化し枯死する。

どの欠乏症が見られることがあります。昨年に後述のような症状が見られた圃場では、今後の施肥設計を見直してみましよう。



写真⑥ ホウ素欠乏

(「ルーラル電子図書館」より引用)



写真④ カリウム欠乏



写真⑤ マグネシウム欠乏



写真③ 健全株(左)、窒素欠乏(中央)、リン酸欠乏(右)

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！
栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。



JA山武郡市 営農なんでも相談室
(本所 営農部内)

☎0120-972-860

表① ネギに登録のある殺菌剤一覧

農薬名	適用病害			使用量・希釈倍率	使用時期	使用回数	特性	
	べと病	さび病	白絹病				予防	治療
ユニフォーム粒剤	●	●	●	9kg/10a	収穫45日前まで(土寄せ時)	1回	○	○
リドミルゴールドMZ	●			1000倍	収穫14日前まで	3回以内	○	○
メジャーフロアブル	●	●	●	2000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○
カナメフロアブル		●	●	4000〜8000倍	収穫前日まで	4回以内	○	×
パレード20フロアブル		●	●	2000〜4000倍	収穫前日まで	3回以内	○	×
アミスター 20フロアブル	●	●		2000倍	収穫3日前まで	4回以内	○	○
モンカット粒剤			●	4〜6kg/10a	収穫30日前まで(土寄せ時)	4回以内	○	×
リゾレックス水和剤			●	1000倍	収穫14日前まで(土寄せ時)	3回以内	○	×

表② 管理作業時期の目安

土寄せ①	4月10日	4月25日	5月10日
土寄せ②	4月25日	5月10日	5月25日
土寄せ③	5月 5日	5月20日	6月10日
止め土	5月15日	6月 5日	6月20日
出荷開始	6月 1日	6月20日	7月 5日



写真② 白絹病



写真① さび病

ユールを調整しましょう(表②参照)。

主な病害とその対策

● **べと病**
気温15〜20℃、多湿降雨の条件下で発生します。風通しが悪くモヤがかかるような圃場や、窒素過多・軟弱株でも発生しやすくなります。

● **さび病**(写真①)
気温17〜23℃、多湿の条件下で発生します。被害株から胞子が飛散し、周囲の株にまん延します。胞子の発芽適温は9〜18℃であり、発病適期より気温が低い時期から胞子が動き出しやすくなります。

● **白絹病**(写真②)
気温の上昇とともに被害が発生します。25〜30℃、多湿で最も発病しやすく、生育不良と地際の菌糸が特徴です。特に、乾燥状態の後に過湿状態が続くと激増します。
土寄せ前に予防的に防除しましょう。トンネル被覆除去後、土寄せ時にユニフォーム粒剤の散布が効果的です。